

第 47 回塑性加工技術フォーラム

「アジアに向かう金型技術戦略を問う」

日 時：平成 24 年 2 月 16 日（木） 13:00～17:00

会 場：東京都立産業技術研究センター 本部 5 階 会議室 531

[〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-10 電話 03-3909-2151]

交 通：新交通ゆりかもめ テレコムセンター駅下車 徒歩 1 分，
りんかい線 東京テレポート駅下車 徒歩 15 分（駅から無料送迎バスあり）

主 催：日本塑性加工学会（実行：金型分科会），東京都立産業技術研究センター

協 賛：日本機械学会，精密工学会，軽金属学会，日本金属学会，日本鉄鋼協会，自動車技術会，日本金属プレス工業協会，東京都金属プレス工業会，日本ドライ加工振興会，型技術協会，日本金型工業会，アジア金型産業フォーラム

趣 旨：震災後のアジアにおける生産体制の見直しの一環として，韓国から金型技術を中心に生産拠点の移転が提案されている。これと並行してこれまで東北地方を中心とした生産基盤の一部のアジア移転も生産者責任を果たすために，動き始めている。このように我が国の生産システムがその歯車を大きくアジアに回転させていく中で，本フォーラムでは，アジアにおける金型技術展開を進めている企業を中心に，震災後の我が国のものづくりを見据えた議論を行う。

プログラム：開会の辞（13:00～13:05）
司 会（13:05～17:00）

金型分科会主査
芝浦工業大学

片岡 征二君
相澤 龍彦君

時 間	内 容	講 師
13:05～13:20	中小企業の国際競争力強化 ：都内で活躍する中小企業も世界を相手に競争することが求められている。中小企業の国際競争力強化を進める上での，東京都の政策と中小企業への支援の在り方について概説する。	東京都立産業技術研究センター理事長 片岡 正俊君
13:20～13:50	日本金型産業の課題と展望 ：日本の金型産業は大きな岐路に立っている。これまでの国内市場を向いたビジネスモデルではなく，拡大するアジア市場に軸足を移した展開が求められる。アジア発信型産業としての「金型」を展望する。	日本金型工業会会長 上田 勝弘君
13:50～14:20	韓国金型産業の課題と展望 ：世界市場に向けて発信している韓国金型産業のこれまでの歩みと今後の課題を展望し，日本との共存共栄の在り方を模索する。	元韓国金型工業会会長 金 発根君
14:20～14:50	アジアにおけるものづくりリーダーシップ ：拡大する中国市場を取り巻く ACEAN と日本におけるものづくり産業の在り方を考え，新たな日本のリーダーシップについて提言する。	日本工業大学 横田悦二郎君
14:50～15:05	休 憩	
15:05～15:35	タイにおける金型産業とその動向 ：今回の洪水に伴う被害の影響から推察されるように日系企業のタイへの進出は目覚ましい。地場産業の成長とともに日系企業の展開について報告し，今後のタイにおける金型産業の在り方を問う。	日進精機(株) 加藤 忠郎君
15:35～16:05	インドネシアにおける金型産業 ：インドネシアへの日系企業の関心は急速に高まっている。同国におけるこれまでの金型産業の動向について報告するとともに，今後のインドネシアにおける金型産業の在り方を問う。	インドネシア金型工業会会長 高橋 誠君
16:05～16:35	インドにおける金型産業 ：中国に次ぐ市場としてのインドは，中近東・アフリカなどへの生産拠点でもある。日系企業とともに民族資本の金型産業の調査をもとに，今後のインドにおける金型産業の在り方を問う。	法政大学 経済学部 馬場 敏幸君
16:35～17:00	総 合 討 論	司 会 芝浦工業大学 相澤 龍彦君

定 員：100 名（定員になり次第締切。定員超過の場合はご連絡します。参加希望者多数の場合は，定員を増やして会場を変更する場合があります。）

参 加 費：会員 4,000 円（学生会員は半額），一般 8,000 円（協賛学協会員は会員扱い），都内中小企業は無料
テキスト：詳細なテキストはありません。当日レジュメを配布いたします。

申込方法：①会員・一般：学会ホームページ(<http://www.jstp.or.jp>)【行事のご案内】のページよりお申し込みください。

参加券・請求書をお送りします。なお，お支払いは請求書到着後 2 週間以内にお願ひいたします。

②都内中小企業：東京都立産業技術研究センター ホームページ(<http://www.iri-tokyo.jp>)【産業交流】の【学協会連携事業】のページよりお申し込みください。